

第1回学校の在り方地域懇談会（八街中央中学校区）

次 第

日 時 令和7年8月27日(水)

午後2時00分

場 所 八街中央中学校会議室

1 開 会

2 教育長挨拶

3 自 己 紹 介

4 議 題

（1）小中学校の現状と課題について

（2）児童生徒数の推計について

（3）県内市町村の取組事例について

（4）その他

5 閉 会

※児童・生徒が最も多かった時期と現在とを比較して記入してください。	教育活動の変化や留意事項	
	最も多かった時期（昭和56年度） 児童数：1,901人	現在（令和7年度） 児童数：655人
学校の雰囲気・人間関係	<p>児童生徒数の多寡により、学校全体や学級内の活気、人と人との関わり方、異学年交流、教職員と児童生徒の関係性など</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現在、各学年3～4学級あるため、学校や学級内の活気は見られる。 ・人との関わり方としては、学年や学級に交流できる十分な人数はいるものの、学習や友人関係など嫌なことを避ける傾向にあり、不登校や長欠の児童が増加している。コロナ禍以降の人間関係における、経験不足の表れではないかと考える。 ・異学年交流として、縦割り活動を行っている。人数の減少に伴い、ちょうどよい規模の学校の大きさであり、活動を行いやすい。異学年の交流は、それぞれを成長させる良い機会となっているため今後も継続していきたい。 	
授業や学習活動 ・学校行事	<p>授業の進め方や学習形態の変化、少人数指導やICTの活用状況、学校行事の規模や内容、運営方法など</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童数には変化があるが、授業を受ける子どもたちの姿は変わらず落ち着いている。 ・時代の流れから学び合いながら授業を進める学習形態が増え、若い職員を中心にICTをうまく活用しながら取り組んでいる。 ・少人数指導に充てられる職員がいないため行えていないが、地域人材による学習支援ボランティアの方の協力により、個に応じた指導にも取り組んでいる。 ・学校規模とは別の事情が中心であるが、学校行事の規模、内容、は縮小傾向ではある。その中で、どのような体験、経験が与えられるかを吟味して計画している。 	
教職員体制・学校運営	<p>教職員の人数や配置、年齢構成、兼務の実態、校務分掌の在り方、管理職や主任の負担感、外部支援者の活用状況など</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教職員の人数配置は学級数の減少に伴い減っているが、様々なニーズの教室が必要となっている。教職員の人数としては、加配職員が配置されていないため、日本語教室、言語通級教室を増置職員により配置している。音楽専科を入れて3名の増置職員が使われてしまっているため、教務主任が担任を兼務している状況で、本校の規模としてはかなり苦しい状況である。今後は日本語教室や言語通級教室の設置について考えていく必要がある。 ・本校は1～5年目までの教職員が11名おり、内、10名が担任、1名が育児休暇という現状である。教職員数が減少する中で、中堅層が少なくアンバランスな状況にある。 ・若い職員や講師が多いことから、管理職を含め、一部の主任や職員の負担が増えている。できる限りチーム体制で対応することで軽減を試みているが、負荷自体を減らす取り組みを考えていきたい。 ・外部支援者として、見守り隊、学校支援ボランティアの方々の力を借りることで、大変助かっている。支援者の年齢構成がかなり高くなっているので今後の協力について懸念がある。また、連絡調整のために地域コーディネーターがいていただけると助かると思われる。 	

※児童・生徒が最も多かった時期と現在とを比較して記入してください。	教育活動の変化や留意事項	
	最も多かった時期（昭和56年度） 児童数：1,901人	現在（令和7年度） 児童数：655人
施設の維持管理、空き教室や特別教室の利用方法、共有スペースの活用、防災・安全面への対応など		
施設の維持管理 ・空間の使い方	<ul style="list-style-type: none"> 以前あったプレハブ校舎はなくなり、第2グラウンドなどは有効に使っている。 児童数は減少しているが、1クラス当たりの人数の減少や様々なニーズの教室の必要性から、教室は全て使用している状況である。（1階の4教室を、放課後児童クラブと放課後教室に提供している。） 施設の維持管理については、校舎が大きく、古くなってきているため様々な不具合が発生しているが、その都度教育総務課の協力により対応している。 	
PTA活動や地域ボランティアの関わり、登下校の安全体制、放課後の過ごし方、地域行事や外部関係団体との連携状況など		
保護者や地域との関わり ・子どもを取り巻く環境	<ul style="list-style-type: none"> 児童数は減少しているが、登下校時、保護者の車による送迎が年々増加している。また、児童の遅刻も増加している。保護者のクレームの内容も含め、子どもを大切にするための考え方が変化してきている。 PTAの人数の減少、また時代の変化に伴い、役員数やPTA活動は減少している。現在のPTA活動は、一部の協力的な役員により行われている。奉仕作業への協力などは1～2割程度である。 児童数の減少に伴い、保護者同士の関りが薄くなり、児童のトラブルにより保護者の関係まで影響する場面が度々見られる。学校を通して保護者間のつながりを持つことができるよう、地域コミュニティの中心となっていくことが必要である。 家庭数の減少はあるが、片親世帯の割合が高く、生活時間も不安定なため、保護者と連絡を取ることが困難な家庭が増えている。 児童数は減少しているが、地域からの思いがたくさんある学校であり、地域行事への参加を呼び掛けている。学校も参加を促す協力をしている。夏休みには、地域の教育力を生かして実住っ子塾を開催したり、2区青少年相談員を中心とした謎解きアドベンチャーを実施したりして、多くの子どもたちの参加が得られている。 	
活動の種類や実施状況、児童生徒の参加人数、教職員の指導体制、他校との合同実施や地域クラブとの連携など		
部活動・クラブ活動	<ul style="list-style-type: none"> 児童数は減少しているが、課外活動として、通年（長期休業期間中を除く）で合唱を、期間限定で陸上の実施を維持している。 陸上練習では、黎明高校の陸上部にも教えに来ていただくなど、地域の協力を得ることで、ハイレベルな技術や能力を実際に見ることで、夢や目標を持つことができるよう取り組むことができた。 	

「学校の在り方地域懇談会」資料（各小中学校の現状と課題）

【八街市立交進小学校】

※児童・生徒が最も多かった時期と現在とを比較して記入してください。	教育活動の変化や留意事項	
	最も多かった時期（平成 11 年度） 児童数：651人 教員数：23人	現在（令和 7 年度） 児童数：159人 教員数：14人
学校の雰囲気・人間関係	<p>児童生徒数の多寡により、学校全体や学級内の活気、人と人との関わり方、異学年交流、教職員と児童生徒の関係性など</p> <p>児童数が多い頃は活発で多様な交流が期待できる一方、個への配慮が充分ではなかった可能性がある。 現在は、児童数は少ないが、家庭的で深い人間関係が築け、きめ細やかな指導が可能である。各学年1クラスで6年間同じメンバーで学び、縦割り活動で異学年交流を深め、上級生が下級生の世話をすることで育っている。児童同士も他学年の児童の氏名をほぼ覚え、交流を深めている。教職員も全校児童の氏名を覚え、学年関係なく接している姿が多く見られる。</p>	
授業や学習活動 ・学校行事	<p>授業の進め方や学習形態の変化、少人数指導やICTの活用状況、学校行事の規模や内容、運営方法など</p> <p>かつては各学年3クラスで加配教員の配置もあり、算数科の少人数指導が可能だった。 現在、ICT機器の活用により、視覚的提示や学習状況把握も容易になっている。また、AI機能による個々の実態に応じた課題を配付することができるので、児童も自分の能力に応じた課題に取り組みやすくなっている。学校行事の規模は、年々小さくなってきているが、実施方法を工夫することで新たな形に変容している。例えば、入学式や卒業式は、高学年のみの参加だったが、現在は、全校が参加し、「お世話になった6年生の門出を祝う会」となっている。</p>	
教職員体制・学校運営	<p>教職員の人数や配置、年齢構成、兼務の実態、校務分掌の在り方、管理職や主任の負担感、外部支援者の活用状況など</p> <p>平成11年度は職員数が多く、ベテランと若手のバランスが取れ、一人当たりの校務分掌量も少なかった。しかし、現在は単学級化で低・中・高学年のブロック制となり、ブロックごとの行事も増えた。職員数減少により一人当たりの分掌量も増加し、小規模校ほどその傾向は顕著である。「働き方改革」として様々な業務改善などに取り組んでいるが、新教科指導などの新たな業務も加わり、教職員の多忙化の解消は道半ばである。幸い、「交進みらい塾」などの外部支援が大きな助けとなっているが、支援者の高齢化という課題も抱えている。</p>	

「学校の在り方地域懇談会」資料（各小中学校の現状と課題）

【八街市立交進小学校】

<p>※児童・生徒が最も多かった時期と現在とを比較して記入してください。</p>		教育活動の変化や留意事項	
施設の維持管理 ・空間の使い方	最も多かった時期（平成 11 年度） 児童数：651人 教員数：23人		現在（令和 7 年度） 児童数：159人 教員数：14人
	施設の維持管理、空き教室や特別教室の利用方法、共有スペースの活用、防災・安全面への対応など		
本校施設は老朽化が著しく、修理依頼もかなりの頻度である。その都度対応していただいているが、予算そのほかの都合もあり難しい状況である。防災・安全面に関する箇所から優先的に対応していただいている。校庭や樹木の維持管理を職員が担う場合もあり、職員数の減少により作業が勤務時間外にも及ぶなど、教職員の負担が増大している。学級減により生じた本校舎の空き教室は男女別更衣室として、また、新校舎は教育センター及び英語ルーム、PTA会議室として活用している。			
PTA活動や地域ボランティアの関わり、登下校の安全体制、放課後の過ごし方、地域行事や外部関係団体との連携状況など			
PTAは、家庭数の減少や負担軽減の観点から今年度から専門部を廃止し、本部役員とボランティアの新体制へ移行した。初年度のため成果は未知数だが、保護者は本部役員を中心に概ね協力的である。 平成17年から続く登校見守り隊は今も活動しており、児童が安全に登校できるよう支えていただいている。「交進みらい塾」と称するボランティア団体は、図書室整備、掲示物作成、簡単な修理、さらには家庭科や生活科の授業支援まで、多岐にわたるサポートをしてくださっている。学校運営に不可欠な存在で地域との連携が、学校を支える重要な柱となっている。			
活動の種類や実施状況、児童生徒の参加人数、教職員の指導体制、他校との合同実施や地域クラブとの連携など			
平成11年度頃、本校では金管バンドや陸上競技が希望者の中から選抜され、各学年の体育部や音楽部の職員を中心に指導していた。しかし、現在は児童数の減少を受け、市の音楽発表会は6年生全員がクラス合唱や合奏で参加し、陸上大会も高学年全員が選手となる形に変化している。これにより、より多くの児童が経験できる一方、教職員数の減少から学級担任全員での指導となり、職員一人あたりの負担が増加している。			

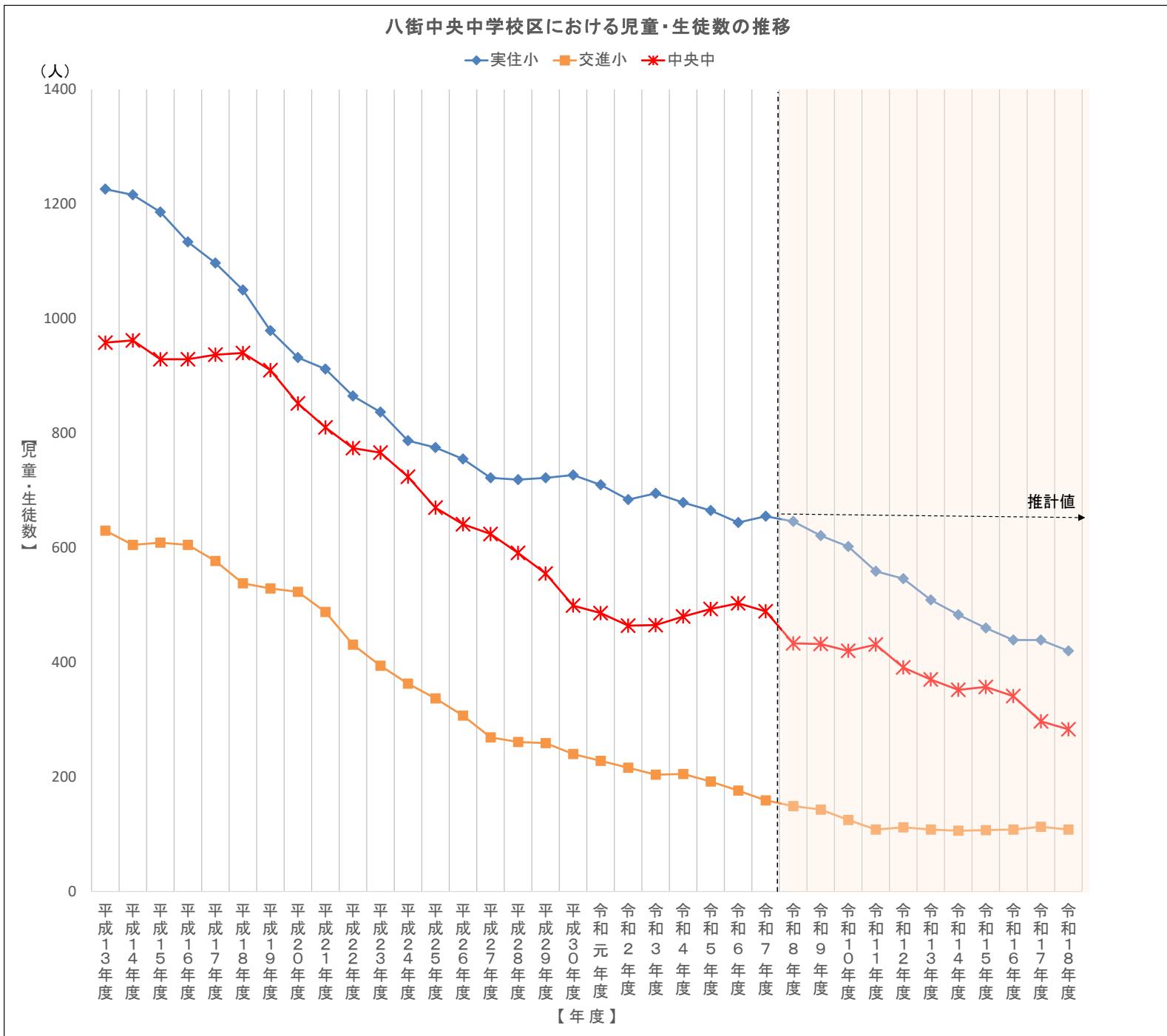
※児童・生徒が最も多かった時期と現在とを比較して記入してください。	教育活動の変化や留意事項	
	最も多かった時期（平成元年度） 生徒数：1057人 教員数45人	現在（令和7年度） 生徒数：489人 教員数：33人
学校の雰囲気・人間関係	<p>児童生徒数の多寡により、学校全体や学級内の活気、人と人との関わり方、異学年交流、教職員と児童生徒の関係性など</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒数が多かった時期は、仮設校舎を使用していたと把握している。現在の校舎になり、約20年ほど経過している。 生徒数、教職員数ともに、減少傾向にある。教職員と生徒との関係性においては、良好な関係を築けている。 現在、3年生5クラス、2年生4クラス、1年生4クラス、特別支援学級が5クラスである。生徒間同士の関係については、クラス内は近年で大きく変わらず良好である。学年については、多かった時期よりクラス数が減少しているため、学年での顔が見える関係性を築けていると考えられる。 異学年交流は学校行事の体育祭や、合唱コンクール、生徒会活動等で継続的に行えている。 	
授業や学習活動 ・学校行事	<p>授業の進め方や学習形態の変化、少人数指導やICTの活用状況、学校行事の規模や内容、運営方法など</p> <ul style="list-style-type: none"> 授業は各学年とも落ち着いて学習に取り組めている。 本校では、数学において少人数指導を継続して実施している。 数年前から各学級に電子黒板が入り、職員は研修を受けながら、活用している。また、生徒には1人1台端末が貸し出され、授業や課題の配付等で活用している。 学校行事の規模は、生徒数が減ったことや働き方改革等で縮小傾向にある。 来年度以降の数年間は、各学年4クラスで教育活動を進めていくことが見込まれる。 	
教職員体制・学校運営	<p>教職員の人数や配置、年齢構成、兼務の実態、校務分掌の在り方、管理職や主任の負担感、外部支援者の活用状況など</p> <ul style="list-style-type: none"> 教職員の定数は確保されている。今後も数学で少人数指導を行っていくために、配置があると大変ありがたい状況である。 教職員の年齢層は20代～30代が全体の約60%、50代～60代が約30%である。また、経験年数10年以内の職員が約半数を占めており、次にベテラン層（21年以上）が多く、中間層（11年～20年）がほとんどいないという実態である。 職員数が減少しているため、校務分掌において、多くの職員が複数の業務を担当している。 教頭の業務は、年ごとに多岐にわたって増えているように思う。 外部支援者について、一部の部活動で外部指導者を活用しているが、その他の地域ボランティアについては、小学校と比べると、教育活動では活用できていない。 	

※児童・生徒が最も多かった時期と現在とを比較して記入してください。	教育活動の変化や留意事項	
	最多多かった時期（平成元年度） 生徒数：1057人 教員数45人	現在（令和7年度） 生徒数：489人 教員数：33人
施設の維持管理 ・空間の使い方		施設の維持管理、空き教室や特別教室の利用方法、共有スペースの活用、防災・安全面への対応など
<ul style="list-style-type: none"> 現在の校舎になり、約20年経過している。建物全体はきれいに見えるが、様々な箇所で傷みが出ており、修繕が必要な状況である。 敷地面積が広く、校庭の雑草取りにはかなりの時間と労力を割かなければいけない状況である。 空き教室は少人数指導用の教室として活用しており、今年度から男子更衣室として活用を始めたところである。 防災、安全面として、昇降口の鍵を直していただいた。窓枠のゆがみ等、修繕が必要な箇所がある。 		
保護者や地域との関わり ・子どもを取り巻く環境		PTA活動や地域ボランティアの関わり、登下校の安全体制、放課後の過ごし方、地域行事や外部関係団体との連携状況など
<ul style="list-style-type: none"> PTA活動についてはコロナ禍を経て、体制が縮小されてきている。 年に3回実施している奉仕作業や各行事等で駐車場役員等でボランティアの形で実施しているが、参加人数は減少傾向にある。 中学校としての登下校時の見守り隊はないが、学区内の小学校单位で毎日、活動していただいている。職員は朝と帰りに正門や裏門付近を中心に指導を行っている。 地域の夏祭り等の見回り活動は、コロナ禍以降は行っていない。 		
部活動・クラブ活動		活動の種類や実施状況、児童生徒の参加人数、教職員の指導体制、他校との合同実施や地域クラブとの連携など
<ul style="list-style-type: none"> 部活動は生徒数が減少傾向であったが、昨年度まで運動部、文化部ともに廃部にすることなく続けてきた。しかし、今年度、職員数の減少に伴い、部活動数を縮小していくかなければならない状況になり、ソフトボール部、柔道部、パソコン部については今年度から部員を募集せず来年度の夏まで活動を行う。演劇部は募集するが部活動としては来年度の夏までの活動とする。 今年度は部活数に対して職員数が足りないため、副顧問を複数担当する職員がおり、管理職も副顧問を担当している。 野球部（R6年度より）、陸上部、剣道部、演劇部については今年度より部活動地域展開に移行した。 		

(単位:人)

八街中央中学校区における児童・生徒数の推移

学校年度	実住小	交進小	中央中
平成13年度	1226	630	958
平成14年度	1216	605	962
平成15年度	1186	609	929
平成16年度	1134	605	929
平成17年度	1097	577	937
平成18年度	1050	538	940
平成19年度	979	529	910
平成20年度	932	523	852
平成21年度	912	488	810
平成22年度	865	431	774
平成23年度	837	394	766
平成24年度	787	363	724
平成25年度	775	337	670
平成26年度	755	307	641
平成27年度	722	269	624
平成28年度	719	261	591
平成29年度	722	259	555
平成30年度	727	240	499
令和元年度	710	228	486
令和2年度	684	216	464
令和3年度	695	204	465
令和4年度	679	205	480
令和5年度	665	192	493
令和6年度	644	176	503
令和7年度	655	159	489
令和8年度	646	149	433
令和9年度	621	143	432
令和10年度	602	125	420
令和11年度	559	108	431
令和12年度	546	112	391
令和13年度	509	108	370
令和14年度	483	106	352
令和15年度	460	107	357
令和16年度	439	108	341
令和17年度	439	113	297
令和18年度	420	108	283



学級編制推移一覧

八街中央中学校

(各年5月1日現在)

学年 年度	1年		2年		3年		合計	
	学級 数	生 徒 数	学級 数	生 徒 数	学級 数	生 徒 数	学級 数	生 徒 数
平成13年度	8	323	9	342	8	293	25	958
平成14年度	8	300	8	319	9	343	25	962
平成15年度	8	309	8	300	8	320	24	929
平成16年度	9	322	8	308	8	299	25	929
平成17年度	9	311	9	320	8	306	26	937
平成18年度	8	304	8	313	9	323	25	940
平成19年度	8	294	8	304	8	312	24	910
平成20年度	7	251	8	296	8	305	23	852
平成21年度	7	265	7	250	8	295	22	810
平成22年度	8	257	7	266	7	251	22	774
平成23年度	7	246	7	256	7	264	21	766
平成24年度	7	224	7	243	7	257	21	724
平成25年度	6	209	6	221	7	240	19	670
平成26年度	6	208	6	210	6	223	18	641
平成27年度	6	205	6	209	6	210	18	624
平成28年度	5	175	6	208	6	208	17	591
平成29年度	5	171	5	177	6	207	16	555
平成30年度	5	151	5	171	5	177	15	499
令和1年度	5	167	4	150	5	169	14	486
令和2年度	4	148	5	168	4	148	13	464
令和3年度	4	150	4	148	5	167	13	465
令和4年度	5	176	4	152	4	152	13	480
令和5年度	5	167	5	174	4	152	14	493
令和6年度	5	152	5	173	5	178	15	503
令和7年度	4	157	4	156	5	176	13	489
令和8年度	4	127	4	153	4	153	12	433
令和9年度	4	151	4	128	4	153	12	432
令和10年度	4	140	4	152	4	128	12	420
令和11年度	4	138	4	141	4	152	12	431
令和12年度	3	111	4	139	4	141	11	391
令和13年度	3	120	3	111	4	139	10	370
令和14年度	3	119	4	121	3	112	10	352
令和15年度	3	116	3	120	4	121	10	357
令和16年度	3	104	3	117	3	120	9	341
令和17年度	2	76	3	104	3	117	8	297
令和18年度	3	101	2	77	3	105	8	283

※学級数は普通級数を児童数は総児童数を表示している。

※令和8年度からは推計を表示している。

学級編制推移一覧

実住小学校

(各年5月1日現在)

学年 年度	1年		2年		3年		4年		5年		6年		合計	
	学級 数	児童 数												
平成13年度	5	201	5	193	5	200	6	231	6	205	5	196	32	1,226
平成14年度	5	176	6	204	5	201	5	197	6	234	6	204	33	1,216
平成15年度	5	175	5	179	6	203	5	201	5	195	6	233	32	1,186
平成16年度	5	165	5	176	5	181	6	208	6	206	5	198	32	1,134
平成17年度	5	151	5	170	5	173	5	185	6	209	6	209	32	1,097
平成18年度	5	159	5	155	5	165	5	176	5	185	6	210	31	1,050
平成19年度	5	136	5	162	5	156	5	168	5	174	5	183	30	979
平成20年度	4	129	5	138	5	164	5	155	5	170	5	176	29	932
平成21年度	4	141	4	136	5	139	5	166	5	157	5	173	28	912
平成22年度	4	136	4	139	4	132	5	143	5	160	5	155	27	865
平成23年度	4	127	4	133	4	141	4	138	5	140	5	158	26	837
平成24年度	4	112	4	128	4	133	4	140	4	137	5	137	25	787
平成25年度	4	128	4	114	4	127	4	129	4	138	4	139	24	775
平成26年度	4	119	4	124	4	114	4	130	4	129	4	139	24	755
平成27年度	4	119	4	116	4	124	4	113	4	126	4	124	24	722
平成28年度	4	123	4	120	4	118	4	124	4	110	4	124	24	719
平成29年度	4	127	4	125	4	117	4	116	4	125	4	112	24	722
平成30年度	4	117	4	127	4	126	4	119	4	116	4	122	24	727
令和1年度	4	108	4	113	4	128	4	129	4	116	4	116	24	710
令和2年度	3	93	4	108	4	112	4	125	4	130	4	116	23	684
令和3年度	4	120	3	94	3	111	3	113	4	125	4	132	21	695
令和4年度	3	103	4	121	3	98	3	113	3	118	4	126	20	679
令和5年度	3	107	3	104	4	123	3	99	3	112	3	120	19	665
令和6年度	3	93	3	109	3	106	3	124	3	99	3	113	18	644
令和7年度	4	113	3	93	3	113	3	108	4	129	3	99	20	655
令和8年度	3	97	4	113	3	94	4	111	4	107	4	124	22	646
令和9年度	3	95	3	98	4	115	3	95	4	111	4	107	21	621
令和10年度	3	87	3	95	3	99	4	115	3	95	4	111	20	602
令和11年度	2	65	3	88	3	97	3	99	4	115	3	95	18	559
令和12年度	3	80	2	65	3	89	3	97	3	99	4	116	18	546
令和13年度	3	77	3	80	2	66	3	89	3	97	3	100	17	509
令和14年度	3	73	3	77	3	81	2	66	3	89	3	97	17	483
令和15年度	2	70	3	74	3	78	3	82	2	66	3	90	16	460
令和16年度	2	67	3	71	3	75	3	78	3	82	2	66	16	439
令和17年度	2	65	2	68	3	71	3	75	3	78	3	82	16	439
令和18年度	2	62	2	65	2	68	3	72	3	75	3	78	15	420

※学級数は普通級数を児童数は総児童数を表示している。

※令和8年度からは推計を表示している。

学級編制推移一覧

交進小学校

(各年5月1日現在)

学年 年度	1年		2年		3年		4年		5年		6年		合計	
	学級 数	児童 数												
平成13年度	3	100	3	106	3	113	3	105	3	101	3	105	18	630
平成14年度	3	85	3	97	3	104	3	117	3	100	3	102	18	605
平成15年度	3	107	3	86	3	98	3	102	3	118	3	98	18	609
平成16年度	3	98	3	106	3	85	3	97	3	103	3	116	18	605
平成17年度	3	95	3	100	3	102	3	87	3	93	3	100	18	577
平成18年度	2	67	3	90	3	100	3	103	3	86	3	92	17	538
平成19年度	3	79	2	67	3	89	3	103	3	104	3	87	17	529
平成20年度	3	81	3	77	2	70	3	88	3	103	3	104	17	523
平成21年度	3	71	3	81	2	72	2	71	3	92	3	101	16	488
平成22年度	2	46	3	72	3	80	2	73	2	70	3	90	15	431
平成23年度	2	46	2	48	2	75	3	78	3	77	2	70	14	394
平成24年度	2	48	2	46	2	48	2	74	2	73	3	74	13	363
平成25年度	2	50	2	44	2	49	2	48	2	73	2	73	12	337
平成26年度	2	42	2	50	2	45	2	49	2	47	2	74	12	307
平成27年度	1	35	2	41	2	51	2	46	2	48	2	48	11	269
平成28年度	2	40	1	35	2	41	2	51	2	47	2	47	11	261
平成29年度	2	42	2	40	1	36	2	43	2	51	2	47	11	259
平成30年度	1	31	2	42	2	40	1	37	2	41	2	49	10	240
令和1年度	2	39	1	32	2	42	2	38	1	38	1	39	9	228
令和2年度	1	29	2	40	1	30	2	41	1	39	1	37	8	216
令和3年度	1	28	1	29	2	39	1	29	1	41	1	38	7	204
令和4年度	2	37	1	27	1	29	2	40	1	30	2	42	9	205
令和5年度	1	28	1	35	1	27	1	30	2	41	1	31	7	192
令和6年度	1	17	1	28	1	34	1	28	1	29	2	40	7	176
令和7年度	1	23	1	17	1	28	1	34	1	27	1	30	6	159
令和8年度	1	19	1	24	1	17	1	28	1	34	1	27	6	149
令和9年度	1	19	1	21	1	24	1	17	1	28	1	34	6	143
令和10年度	1	15	1	20	1	21	1	24	1	17	1	28	6	125
令和11年度	1	11	1	16	1	20	1	20	1	24	1	17	6	108
令和12年度	1	20	1	12	1	16	1	20	1	20	1	24	6	112
令和13年度	1	19	1	21	1	12	1	15	1	20	1	21	6	108
令和14年度	1	18	1	20	1	21	1	12	1	15	1	20	6	106
令和15年度	1	18	1	20	1	20	1	21	1	12	1	16	6	107
令和16年度	1	17	1	19	1	19	1	20	1	21	1	12	6	108
令和17年度	1	16	1	18	1	19	1	19	1	20	1	21	6	113
令和18年度	1	16	1	17	1	18	1	18	1	19	1	20	6	108

※学級数は普通級数を児童数は総児童数を表示している。

※令和8年度からは推計を表示している。

児童生徒数推移一覧（抜粋）

年度 学校	平成 13 年度		令和 7 年度		令和 18 年度	
	学級数	児生童徒数	学級数	児生童徒数	学級数	児生童徒数
八街中学校	24	920	14	461	11	367
八街東小学校	28	1,002	18	598	17	481
八街北小学校	16	551	8	224	6	160
合計（児童数）		1,553		822		641
八街中央中学校	25	958	13	489	8	283
実住小学校	32	1,226	20	655	15	420
交進小学校	18	630	6	159	6	108
合計（児童数）		1,856		814		528
八街南中学校	18	665	6	206	4	114
笹引小学校	12	293	6	90	6	72
二州小学校	9	248	6	96	6	79
二州小学校沖分校	4	57	2	6	4	15
川上小学校	21	734	6	124	6	91
合計（児童数）		1,332		316		257
八街北中学校	14	485	7	227	3	89
朝陽小学校	28	972	12	332	6	152
合計（児童数）		972		332		152

※学級数は普通級数を児童数は総児童数を表示している。

※令和 18 年度は推計を表示している。

取組事例Ⅰ（併設型小中一貫教育：長柄町）

Ⅰ. 取組の概要

- (1)長柄小学校・日吉小学校の2小学校を令和11年4月に統合
- (2)統合した小学校を長柄中学校敷地に設置し小中一貫教育を推進

2. 取組の基本的な考え方

- (1)こどもたちにとってより良い教育環境の構築と質の高い学校教育を実現する。
- (2)小学校の学校規模を複式学級が生じない規模とし、少なくとも1学年1学級以上の児童数を確保する。

年度	学校名	1年	2年	3年	4年	5年	6年	小計	合計
令和6年度	長柄小学校	18名	19名	13名	12名	21名	19名	102名	180名
	日吉小学校	13名	14名	13名	14名	13名	11名	78名	
令和12年度	長柄小学校	9名	9名	18名	16名	18名	5名	75名	132名
	日吉小学校	7名	5名	11名	10名	12名	12名	57名	

3. 意見の集約

- (1)小学校のあり方についてのアンケートを実施。

【対象者】

- ◇保護者（こども園、小学校）
- ◇民生委員
- ◇青少年相談員
- ◇自治会長
- ◇教職員（こども園、小学校、中学校）
- ◇児童・生徒（小学校5・6年生、中学校1・2年生）

【主な意見】

- ◇子どもの人数が年々減少し、学級の児童数が非常に少ない。
- ◇学校行事等は、児童数が多い方ができることの幅が広がり、選択肢が増える。
- ◇人数が多い方が、多様な人格と触れ合うことができ、競争心が芽生えるだけではなく、協調性が育まれる。友達関係が広がる。

- (2)住民・保護者説明会の実施（令和7年度～、5回（予定））

4. 特記事項

- ◇併設型小・中学校の形態をとることで、小学校と中学校の垣根を越えて9年間を通じた教育課程を編成し、学習指導や生徒指導の充実を図る。
- ◇統合後は、児童の通学距離に応じてスクールバスを運行し、登下校の利便性と安全性を両立する。
- ◇統合後の学校は、日々の学校教育活動や地域活動の施設であるだけでなく、災害時の避難施設や防災拠点としての機能を確保する。

取組事例2（義務教育学校：成田市）

I. 取組の概要

- (1) 下総地区の4つの小学校（滑河小学校、小御門小学校、名木小学校、高岡小学校）と1つの中学校（下総中学校）を平成26年4月に統合し、併設型小・中学校として開校
- (2) 平成29年度から義務教育学校へ移行し、「成田市立下総みどり学園」開校

2. 取組の基本的な考え方

- (1) 一学年複数学級が確保できる12～18学級の規模となるよう学校規模の適正化を図る。
- (2) 9年間を一体のものと捉え、発達段階を踏まえた一貫性の高い教育を行う。

学年編成	学習活動
前期（1～4年生）	自分と向き合う：学習や集団生活に必要な基礎・基本を身に付ける
中期（5～7年生）	他者と向き合う：自ら学ぶ習慣や良好な人間関係を築く力を身に付ける
後期（8～9年生）	将来や社会と向き合う：進路決定に向け、自律と自立に基づいた行動・言動を身に付ける

3. 意見の集約

- (1) 下総地区住民説明会を実施（平成20年7月、計2回）
- (2) 各小中学校保護者説明会を実施（平成20年7月、計8回）
- (3) 下総地区小中連携推進委員会を発足（平成23年7月）

4. 特記事項

- (1) 5,6年生では、ほとんどの教科で学級担任ではなく、教科担任による授業が行われている。
- (2) 学校統合後は、児童生徒の安全確保のため、前期課程の児童はスクールバスを利用して登下校している。
- (3) 学校統合、廃校となる学校の土地・建物については、地域での市民利用等、市民ニーズを踏まえて利活用している。
 - ◇ 旧滑河小学校は、文化財保存展示施設として整備し、また、体育館を地区運動施設として開放している。
 - ◇ 旧名木小学校は、主に自閉症などの知的障がいがある方を対象とした障害福祉サービス事業所として活用している。
 - ◇ 旧高岡小学校は、体育館及びグラウンドを地区運動施設として開放している。

取組事例3（小規模特認校：袖ヶ浦市）

1. 取組の概要

(1) 袖ヶ浦市立平岡小学校幽谷分校を小規模特認校に指定

【小規模特認校指定後の児童数の推移】

	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
学区外児童	6名	7名	5名	5名	5名	1名
学区内児童	9名	10名	7名	6名	7名	2名
計	15名	17名	12名	11名	12名	3名

(2) 袖ヶ浦市立平岡小学校幽谷分校を袖ヶ浦市立平岡小学校本校に統合

2. 取組の基本的な考え方

(1) 主体的・対話的で深い学びの実現を担保する。

(2) 児童の増加を図り、複式学級の解消を目指す。

3. 意見の集約

(1) 学区内住民等の懇談会等を実施(平成29年～平成31年, 計5回)

(2) 在学児童の保護者の懇談会等を実施(平成29年～平成31年, 計5回)

(3) 未就学児の保護者を対象に意向調査を実施(計2回)

【主な意見】

◇少人数すぎる教育環境が不安。

◇分校の伸び伸びとした教育環境を望んでいる。

◇途中から(5年生から)本校に通わせる位なら初めから本校に通って友達を作ってほしい。

(4) 幽谷分校のあり方検討委員会の設置(平成30年～平成31年, 計4回)

4. 特記事項

◇児童の増加を図るため、小規模特認校制度を導入したが大幅な増加には至らなかった。

◇児童にとってどのような教育環境が望ましいかを争点として意見を集約した。

◇平成31年4月入学の児童が4学年修了時となる令和4年度末をもって統合することとした。

◇本校と分校を統合後、旧分校の修学区域はスクールバスを運行することとした。

◇本校と分校を統合後、旧分校については事業者へ貸付けることとしたが、引き続き避難所や投票所として利用できるよう覚書を締結した。